

学区民手作りによる自主防災訓練



【那古野学区】

■世帯数：2,437 世帯

■人 □：4,204 人

■面積：0.299 k m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

那古野小学校において震度6強の地震が発生した場合を想定した自主防災訓練を実施。参加者数は約 340 人。

- ① 災害連絡網を利用して緊急招集。
- ② 19 町内住民が指定の一時避難場所へ集合し、町内情報班が被害状況リストを記入。本部委員は避難者受け入れ体制を整え、救護テントを設置。
- ③ 町内避難誘導班が本部に避難者数と被害者状況を報告。
- ④ 避難者を7班に分け、訓練場へ移動し、炊き出し等の訓練を開始。訓練中に町内給食班へ物資を配給。
- ⑤ 訓練終了後講評。

【住民へのPR方法】

チラシの回覧、学区区政協力委員会及び学区連絡協議会の定例会で訓練実施計画の説明と参加者を募集

【アピールポイント】

- ①避難者受け入れ体制が順調に機能し、本部委員と町内自主防災会との連携が確認され、相互協力が達成できた。
- ②避難訓練を通じ、住民の特技（介護、警護、教職員、英会話能力など）を有する人材の発掘につながった。
- ③不慮の事故を想定し、災害時要援護者及び防災編成組織などの組織責任者を2人体制にした。

2 きっかけ、背景

住民の震災に関する知識の普及、意識啓発を図り、地震への対応能力の向上を図るため、学区民手作りによる自主防災訓練を実施している。訓練を通じて、学区本部委員と町内会自主防災会役員との任務を明確化し、PTA、子ども会役員など若い担い手の育成と学区民の持つ特技や能力を調査し、人材発掘を行う。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、町内会・自治会長、民生委員児童委員、保健委員、消防団員、PTA、女性団体・女性会、子ども会、老人クラブ、スポーツ推進委員 計約 50 人

(2) 他団体との協力

PTA、子ども会、女性会、那古野消防団、災害支援企業

(3) 運営協力

若い担い手発掘のため、訓練時に PTA 及び子ども会から 30 人ほどの協力を得ている。

4 実施のスケジュール

H24 年 5 月 三役で平成 24 年度那古野学区自主防災訓練実施計画案を作成（三役による）

6 月 学区連絡協議会および区政協力委員会の定例会で計画案と概要を了承

8 月 訓練参加者と要援護者名簿、防災会編成図を各町内から提出

9 月 7 日 学区連絡協議会と区政協力委員会の合同会議で任務の確認および協力の依頼

9 月 23 日 那古野小学校グラウンドで訓練のリハーサルを実施

9 月 28 日 避難者全員へ配給する物資の準備（那古野小学校体育館）

9 月 30 日 訓練当日（午前 8 時に震度 6 強の地震が発生した場合を想定し、住民を緊急招集）

5 成果と課題

(1) 成果・効果

- ・ 震度 6 強の地震の発生を想定したため、住民の参加意識が高まり、参加者数が増加した。
- ・ 参加者全員に避難バッグの中身を紹介してもらい、相互のコミュニケーションを図った。

(2) 苦労した点

- ・ 活動の担い手不足。
- ・ 自主防災組織の消化班と救出救護班は実際の災害時に機能できるかどうか疑問があり、訓練でも多数の意見があった。

(3) 今後の課題・展望

- ・ 自主防災訓練は毎年実施すべき活動だが、災害時に高齢者の多い区政協力委員で対応できるか不安である。早急に若い世代の担い手、リーダーの輩出が必要であり、その方法を考えている。

(4) メッセージ・アドバイス

- ・ 本部委員と町内自主防災会役員の任務の明確化と連携が重要。
- ・ 訓練は、震度 6 強の地震の発生という緊急連絡から開始し、避難者受け入れ体制及び本部の設置、自主防災会役員による被害状況リストおよび災害時要援護者名簿の作成まで行っている。また、参加者全員で用具の搬入と収納作業を行っている。

